

# 企業NOW

## 柿原工業(株)

柿原 邦博 社長

福山市箕沖町99-13  
TEL: (084) 953・8100  
●資本金: 9000万円  
●従業員: 200人



樹脂メッキ製品

### 金型から組立まで 一貫生産が強み

前で作るしかなかった」  
さらに52年、客の注文に応じても引き受けるようになった。これで金型から組み立てまでの一貫生産が整った。これが多品種少量生産の流れに合い、同社が発展する素地をつくった。  
同社は環境対策と資源リサイクルに力を入れていることでも知られる。広島県と福山市は昨年11月、同社の「廃樹脂メッキ部品のリサイクル事業」を「び

メッキを中心に金型から組立まで、一貫生産を行う。「一貫生産が我が社の強み。短納期、高品質、低コストは客にもメリットだ」と、柿原邦博社長。  
同社は昭和35年、金属メッキの会社として、スタートした。  
38年、樹脂メッキに乗り出した。当初は「不良品の発生率が八割も出た」。原因の多くは、プラスチック成形品にあると分かり、自社で成形部門を設立した。さらに不良品を減らす努力を重ねる中で、45年から金型の設計製作も手がけるようになった。「外注先も近づくに

んご産業再生特区」の特例措置に追加提案した。これが認められれば、自社以外の工場から出る樹脂メッキ端材を回収、リサイクルできる。

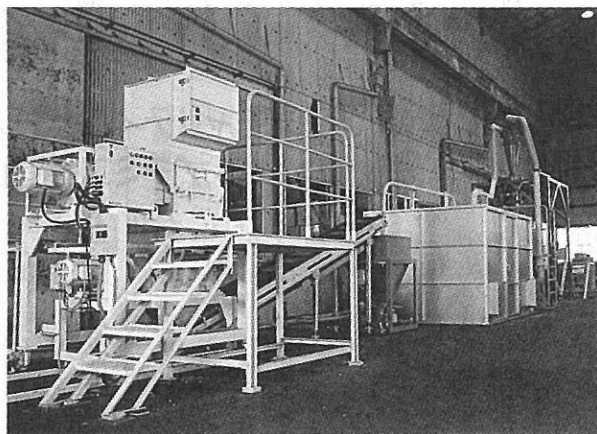
端材は特殊な方法で、純度九九・九%の樹脂と、メッキ・樹脂の混合比一対一の状態のものに二分される。前者は、バージン樹脂に混ぜ、再び樹脂としてリサイクルできる。この工程はすべて電気エネルギーを使い、廃棄物も出さず「非常にシンプル」と柿原社長。

環境負荷は再生樹脂メッキ<sup>※</sup>。当たり、バージン樹脂に比べ、二酸化炭素<sup>※</sup>の削減になる。

樹脂・めつき混合物は単価的に安い。地金原料として売れる物になる。これは溶鉱炉で精錬され、銅、クロム、ニッケルとして再資源化される。混ぜてある樹脂は、助燃剤として溶鉱炉で燃焼する。

樹脂メッキのリサイクルに付加価値を付ける努力も行っている。その一つが銅を使わない「銅フリーメッキ」だ。銅を使わないクロムとニッケルのメッキなら、ステンレス用地金の原料として、銅が入った物より高値で売れる。

今後、自動車リサイクル法に絡み、廃自動車の樹脂メッキ部



樹脂メッキリサイクルプラント

品のリサイクルが課題になる。各地のリサイクル施設に、同社が使うリサイクルプラントを売り込むことで、リサイクルの流れを進めたい考えだ。

同社は一貫生産体制から、さらに「関連性ある多角化」という方針を打ち出す。「単一の事業を行っている」と不況の影響を受けやすい」と柿原社長。何にでも手を広げるのではなく、現在の事業に関連することに多角化を進める。樹脂メッキのリサイクルも「明日の飯のタネ」の一つになると期待を賭ける。

同社は「表面文化の創成」を掲げる。「あらゆる新素材の表面を自社の技術で高付加価値化したい」と柿原社長は締めくくった。